

補給  
お願  
い  
し  
ます  
♡

指揮官  
……  
今日も一日

小さな  
指揮官日誌

R-18 CG集



午前8時  
目が覚めたら二人が僕の乳首を舐めていました。  
愛宕「あら〜今頃お目覚めかしら？お寝坊さんねえ。  
おち〇ぼはずっと前から起きてたわよ〜♡」  
ぎゅうう…。僕の小さなちん〇んが手で弄ばれます。  
高雄「んぶ…じゆる♡男でありながら乳首で…ちゅ♡  
感じてしまうとは情けない…じゆるる♡」



ビュル！ビュルル！

愛宕「わぁ！すごいすこい♡こんな出せるのお！？

いつもこのくらい出してくればいいのにい

高雄「ちゅぱ：朝一番だからな。拙者達が普段

補給されるのは何人もの補給の後：じゅる…



高雄「ちゆる…ぶは…さて、そろそろ出撃準備を  
始めなくてはな…」

愛宕「あらもうそんな時間？残念ねえ。  
それじゃ指揮官、キン○マ空っぽになるまで  
今日も一日頑張ってね♡」

ふ  
↓

は  
↓

は  
↓

は  
↓

ふ  
ふ  
ふ  
ふ  
ふ

ぶ  
ぶ  
ぶ

ぶ  
ぶ  
ぶ

ぶ  
ぶ

ぶ  
ぶ

午前10時  
どこで聞いたのかわかりませんが精子がお肌に  
良いと言うことで搾り取られます。

大鳳「よし。これだけあれば大鳳のお肌もツルツルに  
なりますわ〜♥指揮官様のためにこの大鳳、  
もっと綺麗になってみせますからね〜♥」

そうやって顔に塗り始めます。一日に出せる量も限りがあるの  
のでできれば補給以外では使わないで  
ほしいのですが…



大鳳「ふわぁ〜♥指揮官様の匂いでいっぱいですう…♥  
こんな匂い嗅いじやったせいで体が火照って  
きちゃいました♥」

大鳳さんの手がまた僕のちん○んをしごき始めます。





大鳳「あー♡もっと欲しいですう♡」

大鳳の体中に指揮官様の精子を塗ってください♡

はー♡はー♡ほら：大鳳と一緒にいきましょ♡」

結局大鳳さんの大きな体を塗りつくすまで  
その手が止まることはありませんでした：

ビクッ

グッ  
グッ  
グッ

はー♡

はー♡

グッ  
グッ  
グッ

グッ

グッ

もぐもぐ

もぐもぐ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

午後0時  
お昼ごはんの時間ですが食後すぐ出撃する人のために  
休まず補給します。寧海さんの服は穴が開いているの  
で小さな僕でも入れやすく助かります。  
寧海「もぐもぐ」





寧海「んぼほお!？」

寧海さんの穴はとてもキツく、入れているだけでも  
ウネウネ動いて搾り取ろうとしてみてくださいます。  
油断しているとすぐに…





む...  
む...  
む...

はー♡

はー♡

はー♡

ヒュ  
ヒュ

ヒュ  
ヒュ

ヒュ  
ヒュ

ヒュ  
ヒュ

ヒュ  
ヒュ

ト  
オ  
ト  
オ  
ト  
オ  
ト  
オ  
ト  
オ

寧海「ちょ、ちょ、ちよっと！  
出すときはちゃんとお願いなさいよ！  
肉まん吹き出しちゃったじゃない...もったいない！」  
怒られてしまいました...。円滑な補給を行うことが  
指揮官の務めです。次は気を付けましょう...



午後1時  
逸仙さんに野外で補給を行います。やってみみたい体位があると  
言うので言われるがまま仰向けになりました。

逸仙「ふふふ。これなら指揮官のことが良く見えます  
さあ、そのまま入れてみてくださいください♡」

む、ふー♡

シキ

シキ

≡

この体位だと逸仙さんのお尻に阻まれて  
なかなかとどきません……。入れようともがいているうちに  
逸仙さんの汗のヌルヌルとお尻の圧で……

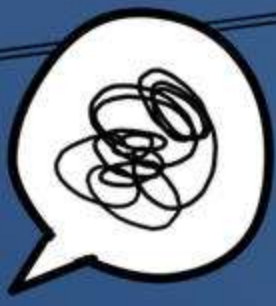
逸仙「んん？何か温かいものがお尻に……。あら？  
指揮官出ちやっただんですか？入れてもいないのに。」

んー？



ぐう  
ん  
ん

逸仙「はあ。これじゃダメですよ、もう一度出してもらいます。  
今度は逸仙が四つん這いになってあげますから、しっかりと  
子宮の奥まで指揮官の精子でいっぱいにしてください♡」  
うう…僕のが小さいばかりに…。牛乳をたくさん飲んで  
体とちん〇んをはやく大きくできるよう頑張ります。



はあ……



トド  
♡

卒

午後3時

メイドさん達は忙しいので2人まとめて補給します。

シリアス「ご主人様。あの薬は飲まれましたか？」

素早く補給できるようにと薬を渡されていたので  
あらかじめ飲んでおきました。

フォーミダブル「あれは指揮官の一度に出る精子の量を倍にする薬ですわ！  
1回の射精で2人補給できる素晴らしい薬ですの。  
私が口で致しますから。指揮官、こちらへ…。」





フォーミダブル「ソポ♥ジュゾゾ〜♥ジュ♥ジュル♥」  
フォーミダブルさんの強烈な吸引でちん○んが  
ちぎれてしまいうです…薬のせいか僕の玉が  
ドクドクと動いているのを感じます。



フォーミダブル「ンポホオ!? プホ! プボボボ♥」  
シリアス「だ、大丈夫ですか!? こんな…出過ぎ…ひい!」





フォーミダブル「ンフー…♡ンフー…♡」  
シリアス「はー…はー…」

クイーン・エリザベス「お茶の用意はまだー？」

シリアス「はっ！はい！今すぐ用意いたします！  
ご主人様、失礼させていただきます！」

まだー？！

んふふ  
♡

ヒク  
ヒク

ん  
ん

ん

ん

木は♡

ん♡

ん♡

は♡

クチャ♡

パチユ♡

パチユ♡

パチユ♡

午後4時

扶桑「他の子たちは任務中ですから、1時間ほど  
指揮官様を独り占めさせていただきます♡  
最低でも5回は出していただきますから…  
覚悟してくださいね♡」



扶桑さんの体は中も外もフワフワで柔らかく  
僕はあつという間に果ててしまいます。

扶桑「あはー♥指揮官様の精子、扶桑の奥で  
感じますう♥ああー♥」



扶桑「ふうー……あら指揮官様？

休んでいる時間はありませんよ？あと4回です。  
ちゃんと出していただかないと……許しませんよ？」

この後僕の腰が止まることはなく  
結局7発以上出したと思います……





午後6時  
夕立さんとオモチャで遊んであげます。  
夕立「もうこのおもちゃ飽きた！なんか他にないのか？  
…いやディスク投げるのはいやだって！  
そうだ、指揮官！その股にぶら下げてるの触らせろ！」

ふん

タ立「なでなでしてやるよ!...えへへ」ピクピクしてて

おもしろいじゃん♪

穴に入れるより手でいじった方が形がよくわかるぜ。

...わう? 出そうだから手を止めるって?

だめ♡これはタ立のおもちだからな♡」

いゅち♡

にゅる♡

にゅる♡

とく♡

とく♡



夕立「あはは、連装砲発射〜♡ほら出せ出せ〜♡」



夕立「くうくん…もう出ないのかあ？」

なんだつまんないの…うわ、体が指揮官の  
精子でドロドロだぜ。

…超すごい匂い…♡待ってたらまた出る？  
次は顔にかけてほしい…♡」

くうくん





午後7時  
基地の中をふらふら歩いていたら吾妻さんに  
捕まってしまいました。

吾妻「お散歩ですか指揮官？お暇なのでしたら  
私の自慰を手伝っていただけませんか？」

んん

んん

返事をする前に股に僕の顔を押し付けられます。  
吾妻「下着の上から舌で私を気持ちよくさせる事が  
できたら開放してさしあげます。  
大丈夫です。今日の下着は透けるほど薄手の  
ものですから、指揮官ならすぐできますよ♪」

指揮官さん♡

吾妻「はー♡んっ♡んはー♡上手ですよ指揮官♡  
次は中まで舌を入れてかき回してみてください♡  
そうそう…もっと下品に音を立てて貪って…♡」  
言われた通りに舐めます。

舐めているうちにだんだんと吾妻さんのむれた汗と  
愛液の匂いが太ももと僕の顔の間に充満していきます。  
苦しくなって逃げようとしても吾妻さんの  
手と足でがちりと拘束されているため動けません。  
早く終わらせないと窒息しそうです…。



吾妻「あつ指揮官♡あつ♡あつ♡あつ♡  
指揮官♡あ」

顔が汁まみれになってしまいましたでしたがなんとか  
窒息せずに済みました。ほっとしていると、  
「女の子は何度でもイケるんですよ♪」とのことで  
2回戦目に突入してしまいました。舌が擦り切れそうです…。





午後 8 時

山城「あはあ♥殿様、どうでした?どうでした?殿様をもっと中で締め付けられるように『きんとれ』したんですよ〜♥でもまだお楽しみがあるんです!殿様、お尻の栓を抜いてみてください。」



言われた通り引き抜いてみます。

山城「あっ殿様、ゆっくり抜いてください……」

(ボン！)

山城「おっほおおお……♡♡♡」



山城「はわわ！と、殿様！大丈夫ですか？！」

体中がヌルヌルしたものだらけです…。

山城「うう…すぐ入れていただけれるように軟鋼を  
入れてたんですう…ごめんなさい…」

この後本日15回目のシャワーを浴びます…。



午後10時

消灯時間です。僕は日替わりで色々な人の部屋で寝ることに  
なっています。今日はイラストリアスさんの部屋で寝ます。  
僕が寝る部屋の順番が回ってくるのは2か月に1回くらいです。  
僕の体を一晩中独り占めできる貴重なチャンスだそうで  
大抵の人はまともに寝かせてはくれません。

イラストリアス「指揮官様、今日も一日お疲れ様です♥

私のことは気にせずゆっくりおやすみください♥」

そう言いつつも僕のちん〇んを握る手が止まる気配はありません。  
眠れるでしょうか……。

はーん

はーん

ムキムキ



カニカニ

ビュルル

ビュルル  
んんん

イラストリアス「あらあら指揮官様、おねしょですか？  
うふふ…お仕置が必要みたいですね♥」  
イラストリアスさんのスイッチが入ってしまったようです。  
もう僕はイっているのにイラストリアスさんの手が止まりません。  
イラストリアス「こんな情けないチ○ポでは指揮官は務まりません。  
でも心配しなくてもいいんですよ♥一晩かけて  
イラストリアスが鍛えてさしあげますから…」  
やっぱり今日も眠れないみたいです…



午前0時

イラストリアス「えへへ指揮官様の匂いでいっぱい♡

あつ♡母乳が出ちゃいます♡指揮官様あ……

イラストリアスの母乳の味、確かめてください♡」

途中から僕は寝てしまったようで記憶がないのですが、朝起きたら僕の顔は母乳まみれで隣には精子を体中に塗ったイラストリアスさんが寝ていました。























































































